

ご使用のしおり

JANOME
HIGH QUALITY SEWING

ご使用前に、この取扱説明書を十分、お読み下さい。
この取扱説明書はお使いになる方が、いつでも見られるところに保管して下さい。

安全にご使用いただくために

このミシンを、安全にご使用していただくために、以下のことがらを守って下さい。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY



警告

感電、火災の恐れがあります

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用下さい。
2. 以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いて下さい。
 - ・ミシンのそばを離れるとき
 - ・ミシンを使用したあと
 - ・ミシン使用中に停電したとき



注意

感電、火災、けがの原因となります

1. フットコンローラーの上に物を乗せないで下さい。
2. お客様自身での分解、改造はしないで下さい。
3. ミシンの操作時は、ベッドふた、面板などのカバー類を閉じて下さい。
4. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないで下さい。
5. 曲がった針はご使用にならないで下さい。
6. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないで下さい。
7. お子様のご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意して下さい。
8. 以下のことをするときは、電源スイッチを切って下さい。
 - ・針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき
 - ・上糸、下糸をセットするとき
 - ・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行って下さい）
 - ・取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき
9. ミシン、フットコンローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店にて点検、修理、調整をお受け下さい。
 - ・正常に作動しないとき
 - ・落下などにより破損したとき
 - ・水に濡れたとき
 - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき
 - ・異常な臭い、音がするとき

目次

準備をしましょう

●おとり扱いについてのお願ひ	2
●各部の名まえ	3
●補助テーブル	4
●標準付属品	4

操作をおぼえましょう

●スタート・ストップボタン	5
●上下停針ボタン	5
●返し縫いレバー	5
●ドロップつまみ	5
●押え上げ	6
●押え圧調節レバー	6
●糸調子の合わせ方	6
●模様選択ダイヤル	7
●送りダイヤル	7
●各模様と押えの関係	7
●電源のつなぎ方	8
●速さの調節の仕方	8
●コントローラーの収納	8
●下糸の準備をしましょう	9
★ボビンをとり出します	9
★ボビンに糸を巻きます	9・10
★ボビンをかまにセットします	10
●上糸の準備をしましょう	11
★上糸を掛けます	11
●糸通しの使い方	12
●下糸を引きあげるには	13
●布に適した糸や針を選ぶ目安	13

実用縫いいろいろ

●直線縫い	14
★縫いはじめ	14
★縫い方向をかえるには	14
★縫いおわりと糸の切り方	14
★針板ガイドラインの利用	14
★厚手の布端の縫いはじめ	14
●ジグザグ縫いとかがり縫い	15
★ジグザグ縫い	15
★ジグザグ縫い裁ち目かがり	15
★トリコット縫い裁ち目かがり	15
★かがり縫いステッチ	15

●くけ縫い	16
●三重縫い	16
●直線状伸縮縫い	16
●オートマチックボタンホール	17・18
●芯入りオートマチックボタンホール	18
●ボタンつけ	19
●ファスナーつけ	20・21

応用縫いいろいろ

●キルティング	22
●ピンタック	22
●スモッキング	22
●ファゴティング	23
●パッチワーク	23
●スカラップ	23
●アップリケ	23
●シェルタック	24
●ししゅう	24
●スーパー模様の形の整え方	25

押え・針・ランプの とりかえ方

●押えのとりかえ方	26
★押えホルダーのはずし方・ つけ方	26
●針のとりかえ方	26
●ランプのとりかえ方	26

ミシンの手入れと調整

●ミシンの手入れ	27
★かまの掃除	27
★かまの分解	27
★かまと送り歯の掃除	27
★かまの組立て	27
●ミシンの調子が悪いときの直し方	28

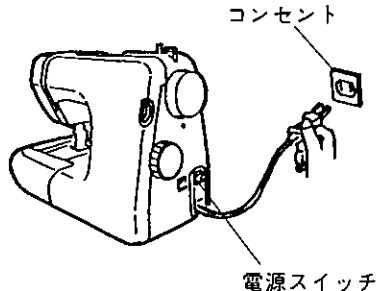
別売品のご紹介

29

準備をしましょう

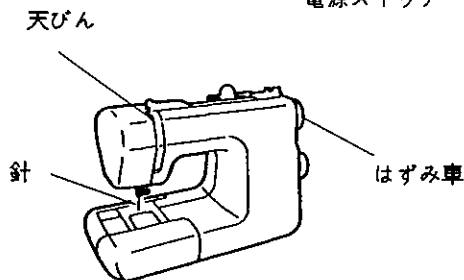
●おとり扱いについてのお願い

★より安全のために



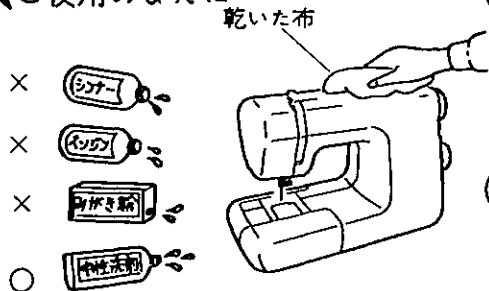
① つぎのようなときは、必ず電源スイッチを切りコンセントから電源プラグを抜いてください。

- 針の周辺でいろいろな作業、たとえば糸通し、針の交換、下糸交換、などの作業をするとき
- 部品の交換、ミシンの手入れをするとき
- ミシンのそばをはなれるとき
- 使用後



② ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れないでください。

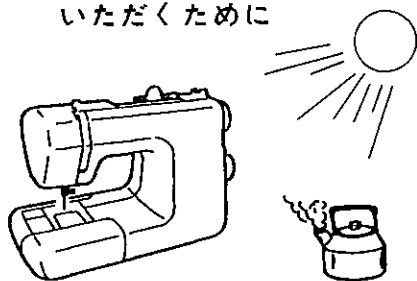
★ご使用のまえに



① ほこりや油などで縫う布を汚さないように、使う前にミシンを乾いたやわらかい布でよくふいてください。シンナー、ベンジン、ミガキ粉は絶対に使用しないで下さい。

② ミシンはこの<ご使用のしおり>を見て、正しく、お使いください。

★いつまでもご愛用
いただくために



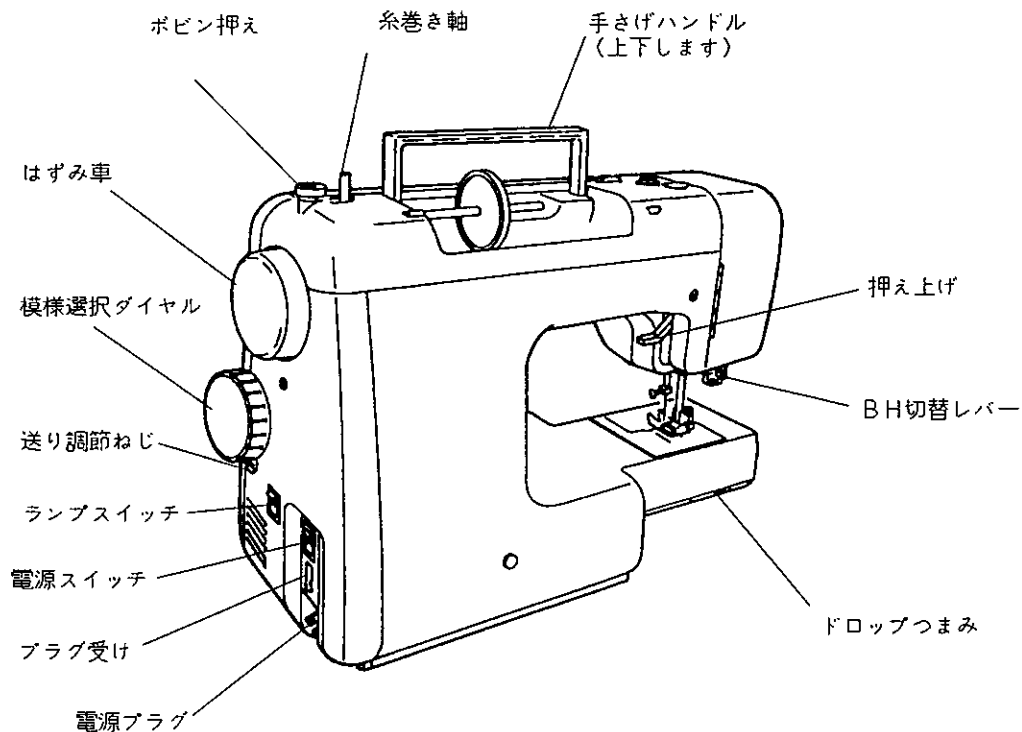
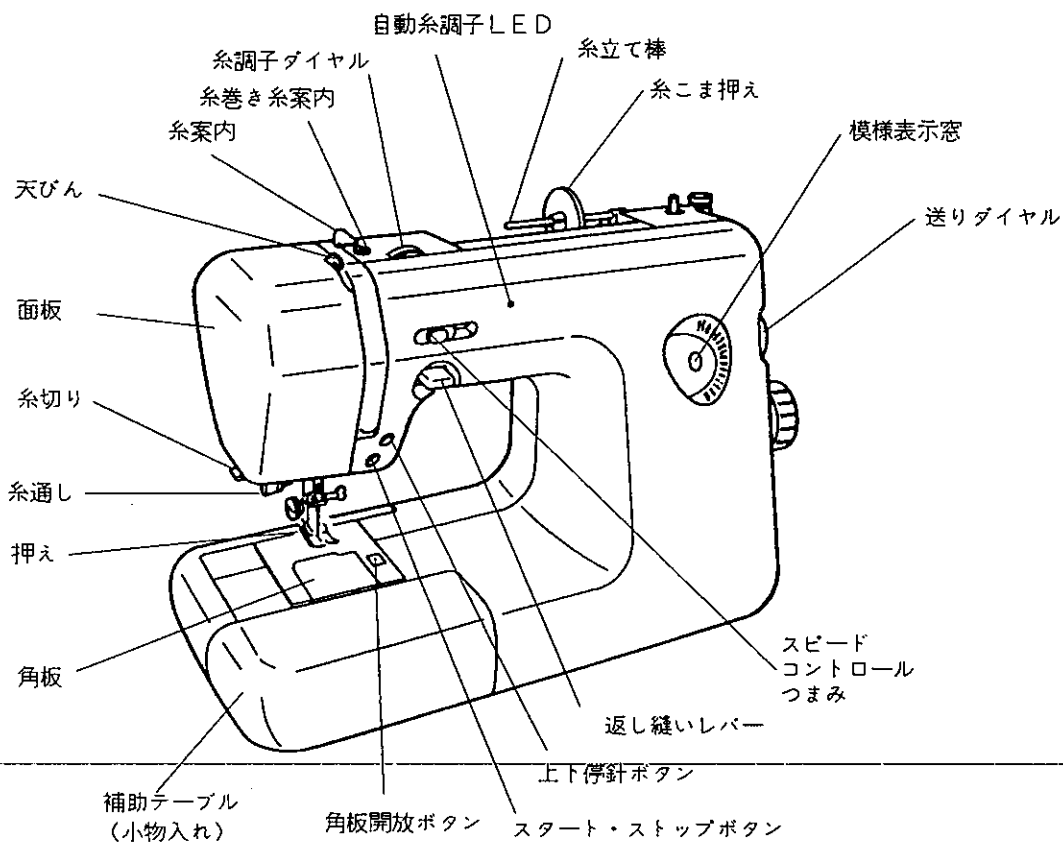
① 長時間日光にあてたり、湿気の多いところはさけてください。

② 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

このミシンは、日本国内用に作られていますので、外国では使用できません。

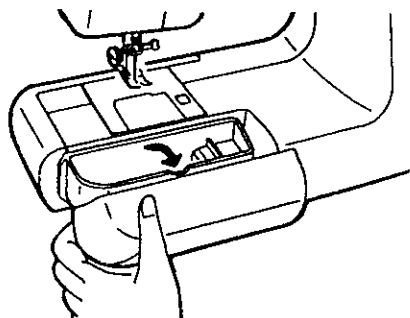
This sewing machine can not be used in foreign country as designed for japan only.

●各部の名まえ

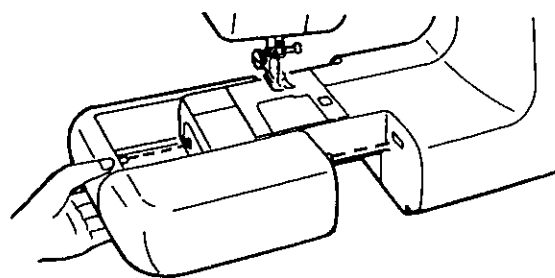


●補助テーブル

★補助テーブルのはずしかた



(補助テーブルをひらくと、
小物部品が入ります。)



(横に引いてはずします。)

●標準付属品

(押えには、記号を表示してあります。)



A 基本押え



針と針ケース



C 裁ち目かがり押え



ねじまわし



E ファスナー押え



ボビン



F サテン押え



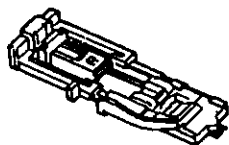
目ほどき



G くけ縫い押え



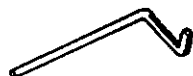
ミシンブラシ



R オートマチック
ボタンホール押え



糸こま押え (小)



キルター
(棒定規)

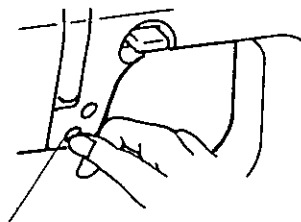


糸こま押え (大)

*糸こま押え (大) はミシンの糸立て棒についています。

操作をおぼえましょう

●スタート・ストップボタン

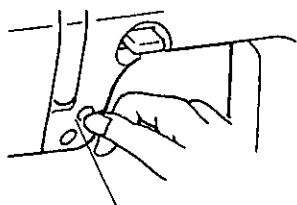


スタート・ストップボタン

ボタンを押すと、ミシンは数針ゆっくりと縫ってからスピードコントロールつまみでセットした速さで縫いはじめます。もう一度押すと、針が上の位置で止ります。

*下糸を巻くときは、ミシンはゆっくりスタートにならずにセットした速さで動きはじめます。

●上下停針ボタン

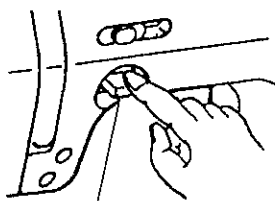


上下停針ボタン

ミシンが止まっているとき、ボタンを押すと、針が上位置から下位置に切りかわります。

もう一度押すと、上位置に切りかわります。

●返し縫いレバー



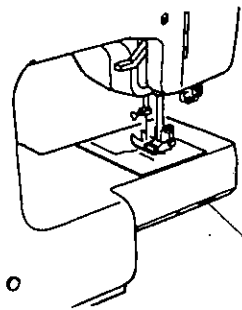
返し縫いレバー

返し縫いレバーを押すと、ミシンは低速で返し縫いをはじめ、指をはなすと止ります。

ミシンを動かしている途中で返し縫いレバーを押すと、押している間は返し縫いをし、指をはなすと、前進縫いに戻ります。

*針に糸を通したり、針や押えをとりかえたりするときに、不用意に返し縫いレバーにふれると、ミシンが動きだしますのでご注意ください。

●ドロップつまみ

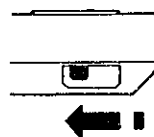
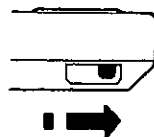


ドロップつまみ

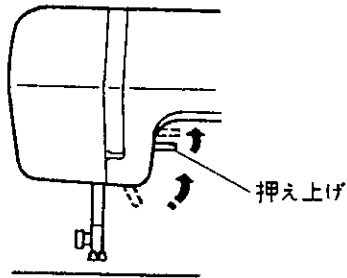
ボタンつけなどで送り歯をさげるときには、ドロップつまみを動かします。

(送り歯をあげた位置)

(送り歯をさげた位置)

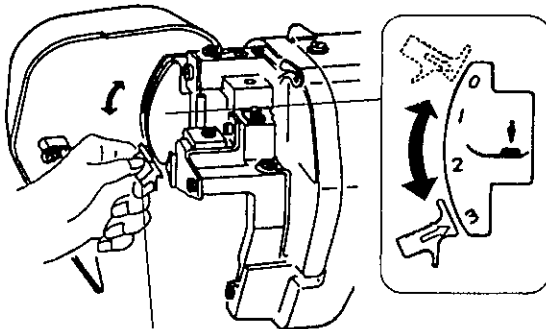


●押え上げ



押え上げを上げると押えがあがります。
厚い布を入れるときには、さらに上げて
使用してください。

●押え圧調節レバー



押え圧調節レバー

○普通縫いのときは・・・「 3 」

○うす手の化繊地や伸縮性のある布など
で 縫いずれがするとき、または、アッ
プリケなど縫いしろ部分が重なり合う
ときは・・・「2」または「1」

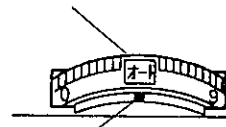
○しつけ縫いのとき・・・「 0 」

●糸調子の合わせ方

★自動糸調子

このミシンは、糸調子ダイヤルを「オート」に合わせると、普通の縫いのときに
バランスよく縫える糸調子に自動セットされてます。

糸調子ダイヤル



指示線

「オート」に合わせると
緑色のシグナルが点灯
します。



(バランスのとれた糸調子)

○直線縫いのときは、上糸と下糸が
布のほぼ中央でまじわります。

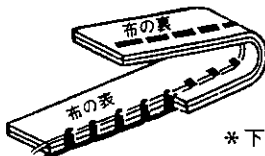


○ジグザグ縫いのときは、布の裏側に
上糸が少し出るくらいになります。

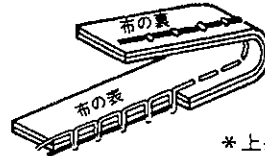
★マニュアル糸調子

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルを
「0～9」に合わせると、マニュアル糸調子となり、上糸と下糸のまじわる位置
を自由に調節できます。

・上糸が強すぎるとき・・・小さな目盛りに合わせて。 ・上糸が弱すぎる時 ・大きな目盛りに合わせます。

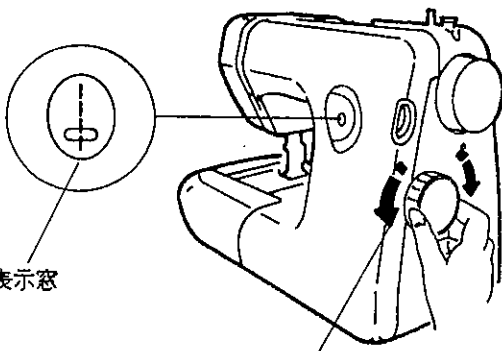


*下糸が布の表に出ます。



*上糸が布の裏に出ます。

●模様選択ダイヤル



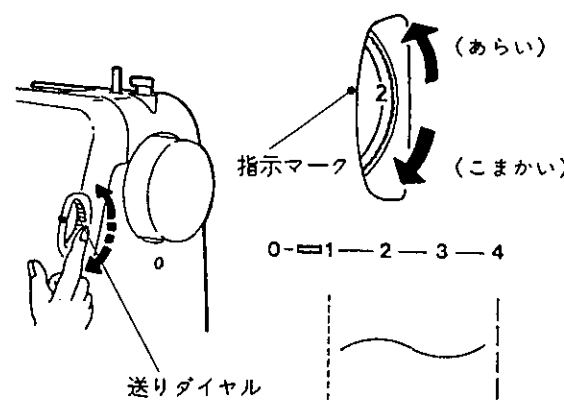
表示窓

模様選択ダイヤル

模様選択ダイヤルをまわし、選んだ模様を表示窓に表示させます。

* 模様選択ダイヤルをまわすときは、針を布からあげてください。

●送りダイヤル




指示マーク















送りダイヤル

送りダイヤルをまわして、指示マークに目盛りを合わせます。

目盛が大きくなると縫い目はあらかくなります。

*  は、ボタンホールの縫い目あらかさの調節範囲をしめします。

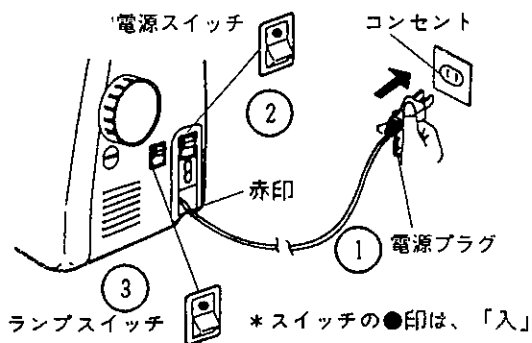
●各模様と押えの関係

模様															
主な用途	ボタンホール	直線縫い	ファスナーつけ	キルティングなど	ジグザグ縫い	かがり縫い	ボタンつけ	くけ縫い	トリコットステッチ	シエルタック	スカラップ	かがり縫い	パッチゴテイング	伸縮縫い	三重縫い
押え記号	R	A・E	A・C・F	G	A	F	F	C	A	A	A	A	A	A	

*印の付いた模様は、スーパー模様ですので送りダイヤルの調節は、必要ありません。

●電源のつなぎ方

★スタート・ストップボタンを使用する場合



① 電源スイッチを「切」にして、プラグをコンセントにさしこみます。

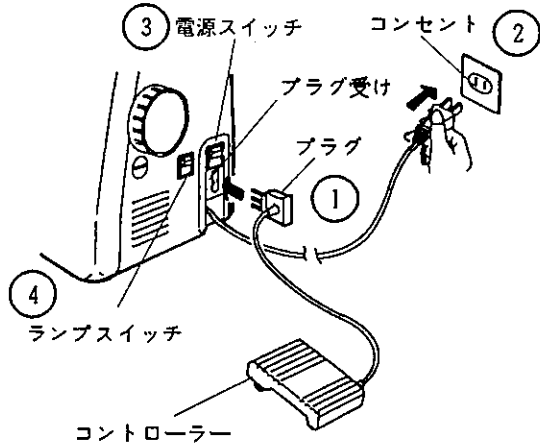
*赤印以上は引き出さないでください。

② スイッチを「入」にします。

*スイッチを入れると「ピッ」という電子音がします。

③ ランプスイッチを「入」にします。

★コントローラーを使用する場合



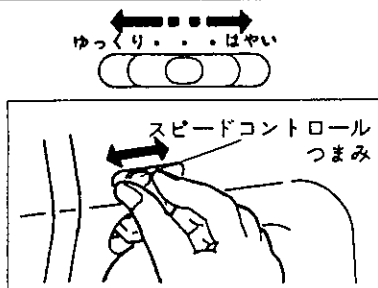
① 電源スイッチを「切」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。

② 電源プラグを引き出し、プラグをコンセントにさしこみます。

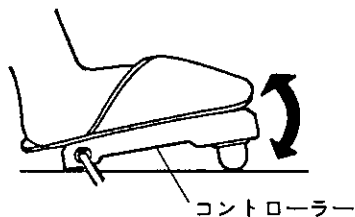
③ スイッチを「入」にします。

④ ランプスイッチを「入」にします。

●速さの調節のし方



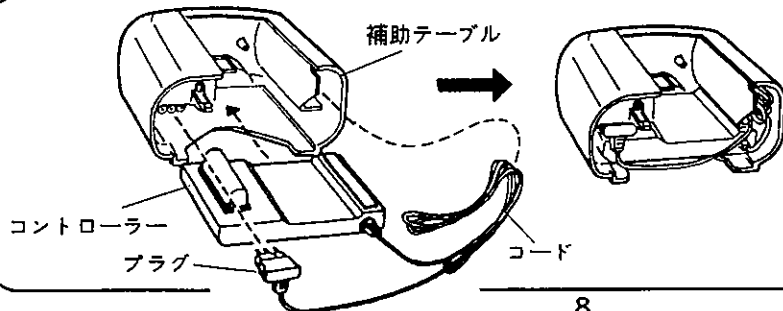
縫う速さは、自由にセットできますので、お好みの速さに、スピードコントロールつまみをセットしてください。



コントローラーは、深く踏み込むほど速くなります。

*スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてください。

●コントローラーの収納



① コントローラーを補助テーブルに押しながら入れます。

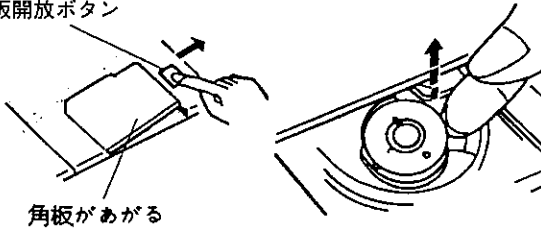
② プラグを補助テーブルの穴にさしこみます。

③ コードを4つ折りにして、補助テーブルに収納します。

●下糸の準備をしましょう

★ポピンをとり出します

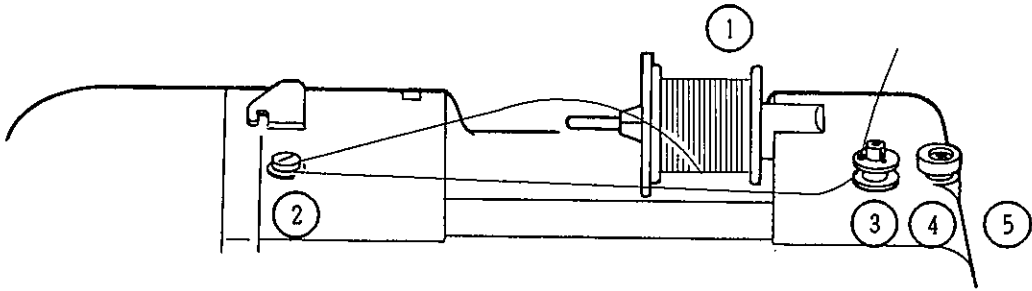
角板開放ボタン



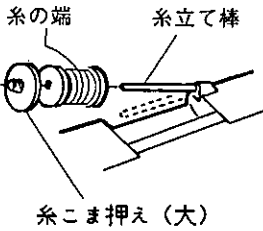
角板があがる

角板開放ボタンを右へずらして角板をはずしポピンをとり出します。

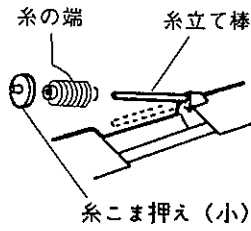
★ポピンに糸を巻きます



(普通の糸こまのとき) (小さい糸こまのとき)



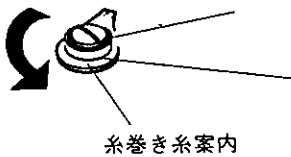
糸こま押え (大)



糸こま押え (小)

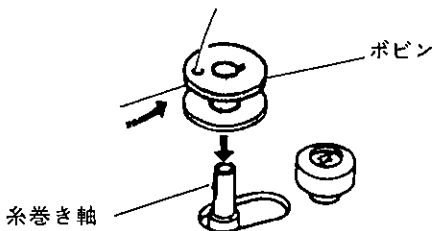
① 糸こまをセットします。

* 糸立て棒を軽くおこし、糸の端が向こう側に出るようにして、糸こまを入れ、糸こま押えで糸こまをおさえます。



糸巻き糸案内

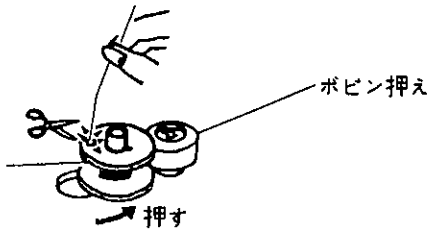
② 糸巻き糸案内に糸を掛けます。



糸巻き軸

ポピン

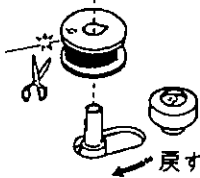
③ ポピンの穴に糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。



糸巻き軸をボビン押えの方へ、移動させると「ピッ」という電子音と共に模様表示が「緑」から「赤」になります。

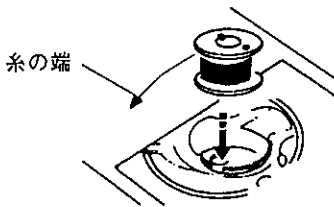
- ④ ボビンを、ボビン押えの方に押しつけ糸の端をつまんだまま、巻きはじめます。糸がボビンに3重ぐらい巻きついたら、ミシンを止めて穴のきわで糸を切ります。

*糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。

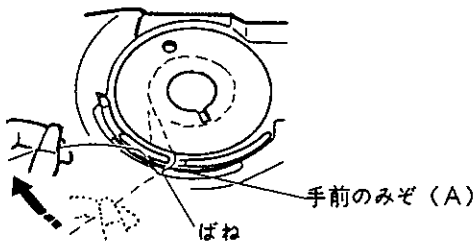


- ⑤ 再びミシンを動かし巻き終わったら、ボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりはらずして糸を切ります。

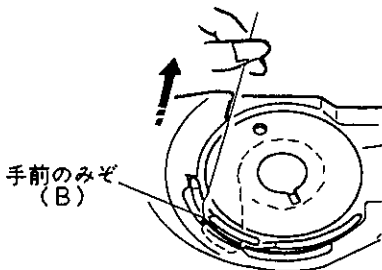
★ボビンをかまにセットします



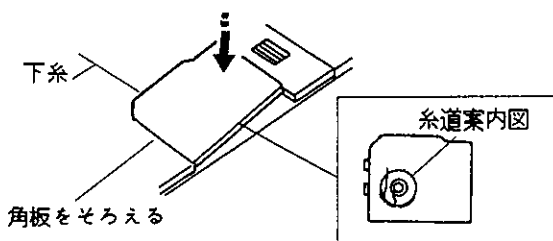
- ① 角板をはずし、糸の端を矢印方向にだして、ボビンをかまに入れます。



- ② 糸の端を引きながら手前のみぞ(A)にかけ、さらに糸を引いて、みぞの外側とばねの間を、通します。



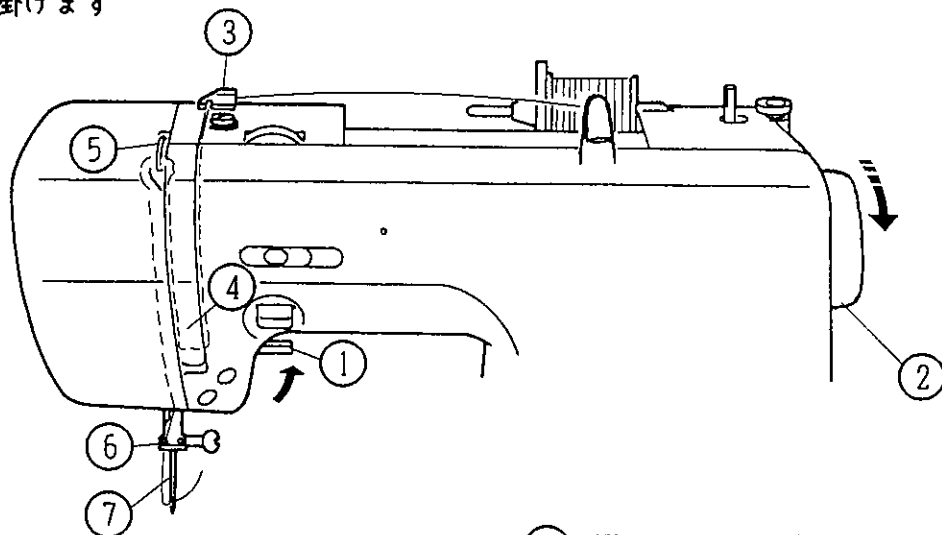
- ③ 糸を手前のみぞ(B)にかけるようにして向こう側に出します。



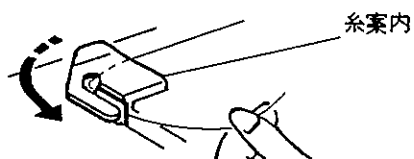
- ④ 下糸を10cmくらい引き出して、角板をつけます。

●上糸の準備をしましょう

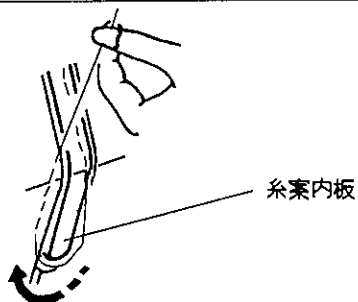
★上糸を掛けます



- ① 押え上げをあげます。
- ② はずみ車を手前に回し、天びんを上部にします。



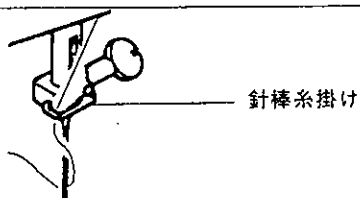
- ③ 糸こまから糸を引き出して糸案内の向こう側から糸案内板の右側にそって下におろします。



- ④ 糸案内板の下を回して、右から左に掛け、上に引きあげます。

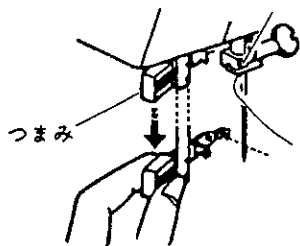


- ⑤ 天びんへは、右から後ろを回して左へ出し、手前に引き出して、まっすぐ下におろします。

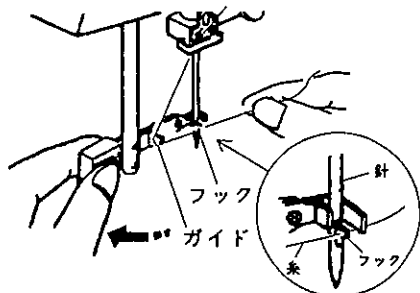


- ⑥ 針棒糸掛けに左から掛けます。
- ⑦ 糸通しを使って針に糸を通します。
(糸通しの使い方は、12ページをごらんください。)

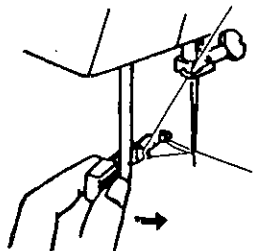
●糸通しの使い方



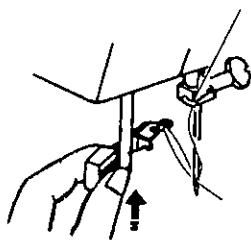
- ① 針を上げて、糸通しつまみを止まるまでいっぱいにさげます。



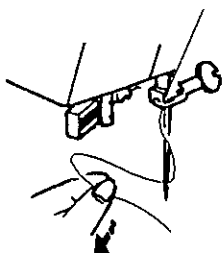
- ② つまみを矢印方向へまわしてフックを針穴に入れます。糸をガイドとフックに掛けます。



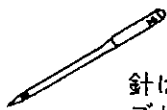
- ③ つまみを矢印方向に引くと糸が輪になって出てきます。



- ④ つまみを静かに押しあげ、糸の輪を引きあげます。



- ⑤ 糸の端を糸通しからはずし、針穴から端を引き出します。



針は、11～16番、およびジャノメブルー針が使えます。



糸は50～100番が使えます。

●下糸を引きあげるには

① 押え上げをあげ、上糸を持ちます。

② はずみ車を手前に回すか又は、上下停針ボタンを2度押して針をあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③ 上糸・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布	糸	針
うすい布 ローン ジョーゼット トリコット ウール・化繊布	絹糸 80番～100番 綿糸 80番～100番 化繊糸 80番～100番	9番～11番
普通の布 普通木綿・化繊布 薄手ジャージー 一般ウール・化繊服地	絹糸 50番 綿糸 60番～80番 化繊糸 50番～80番	11番～14番
	綿糸 50番	14番
厚い布 デニム ジャージー コート地 キルティング	絹糸 50番 綿糸 40番～50番 化繊糸 40番～50番	14番～16番
	絹糸 30番 綿糸 30番	16番

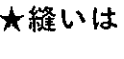
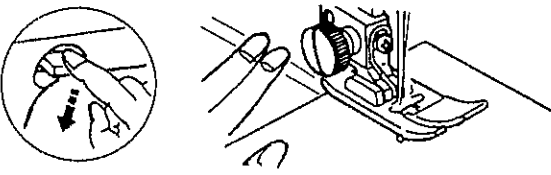
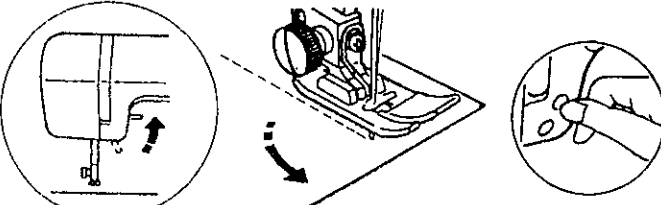
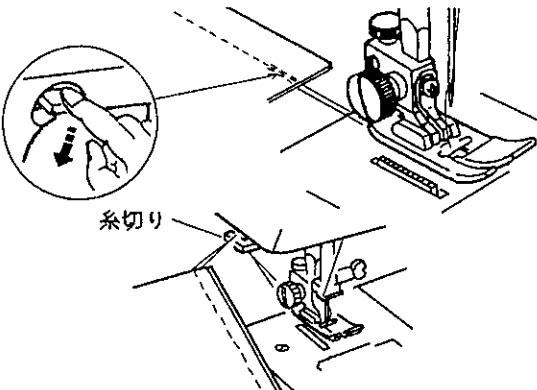
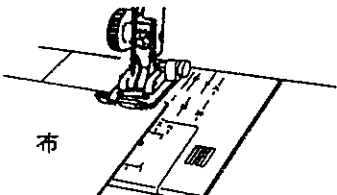
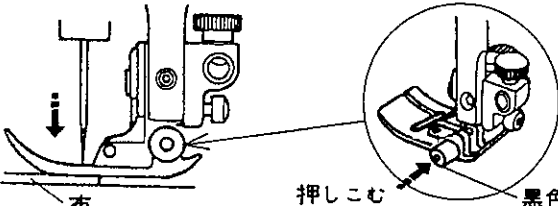
*一般に、うすい布には細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、糸と針を選び、試し縫いをして確かめてください。

*原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

*伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目のとびやすい布地などには、ブルー針を使用すると効果があります。

実用縫いいろいろ

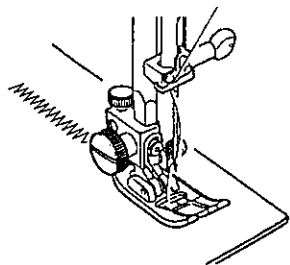
●直線縫い

セットの目安	模様	押え	送りダイヤル												
		A基本押え	1.5~4												
<p>★縫いはじめ</p>  <p>糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ゆっくり縫いはじめます。</p> <p>*縫いはじめのほつれ止めは、返し縫いレバーを押しながら数針返し縫いをします。</p>															
<p>★縫い方向をかえるには</p>  <p>ミシンを止め、はずみ車を手前に回すか、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押え上げをあげ布をまわして縫い方向をかえます。</p>															
<p>★縫いおわりと糸の切り方</p>  <p>返し縫いレバーを押しながら数針返し縫いをします。押え上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。</p> <p>糸切りで糸を切ります。</p>															
<p>★針板ガイドラインの利用</p>  <p>布端を角板及び針板のガイドラインに合わせて縫います。</p> <p>*数字は、針落ち中央からの距離です。</p> <table border="1" data-bbox="795 1449 1303 1574"> <thead> <tr> <th>数字</th> <td>15</td> <td>20</td> <td>4/8</td> <td>5/8</td> <td>6/8</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>間かく (cm)</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td>1.3</td> <td>1.6</td> <td>1.9</td> </tr> </tbody> </table>				数字	15	20	4/8	5/8	6/8	間かく (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9
数字	15	20	4/8	5/8	6/8										
間かく (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9										
<p>★厚手の布端の縫いはじめ</p>  <ol style="list-style-type: none"> ①縫いはじめの位置に針をさし、基本押えの黒色ボタンを押しこみます。 ②ボタンを押したままで押え上げをさげます。 ③ボタンから手をはなし、縫いはじめます。 															

●ジグザグ縫いとかがり縫い

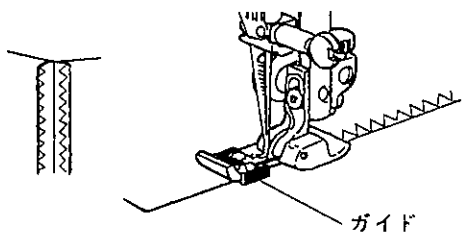
セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	裁ち目のほつれ止めとして広く利用します。
	1 2 3 	A基本押え または C裁ち目かがり押え	*ジグザグ縫い... 0.5~4 *かがり縫い... 1~2	

★ジグザグ縫い



伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るとききれいに縫えます。

★ジグザグ縫い裁ち目かがり

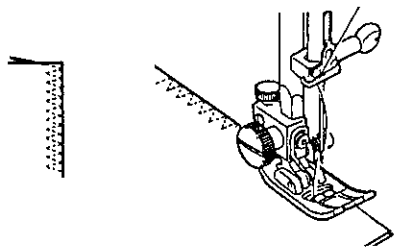


※模様は を選びます。

布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。

★トリコット縫い裁ち目かがり

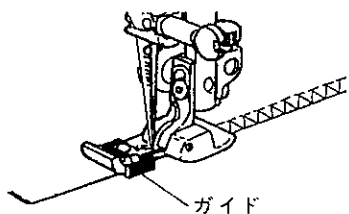
セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	
		A基本押え	0.5~1.5	



布端を押えの右端よりやや内側にし、織り糸を1~2本残すようにして縫います。
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端のそり返り防止などに利用します。


★かがり縫いステッチ

セットの目安	模様	押え	地縫いをかねたかがり縫いで、また、裁ち目のほつれ止めとしても使えます。 *送りダイヤルの操作は必要ありません。
		A基本押え または C裁ち目かがり押え	



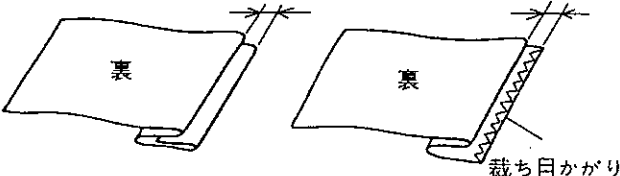
布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。

● くけ縫い

セットの目安	模様	押え	送りダイヤル
		Gくけ縫い押え	1~3

★(布の折り方)

0.4~0.7cm 0.4~0.7cm

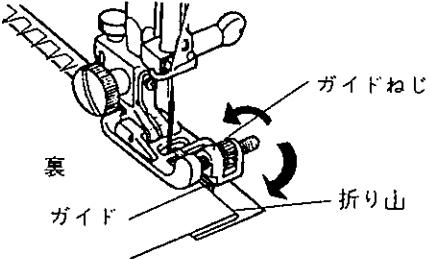


裏 裏

うすい布、普通の布の場合 かい布、厚い布の場合

裁ち目がかり

★(縫い方)



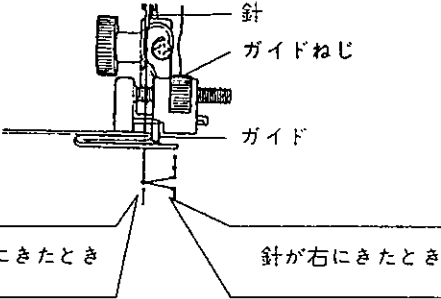
ガイドねじ

裏

ガイド

折り山

★(ガイドの合わせ方)



針


ガイドねじ

ガイド

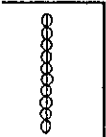
針が左にきたとき 針が右にきたとき

- ① 針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて押え上げをさげます。
- ② ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないように縫います。

● 三重縫い

セットの目安	模様	押え
		A基本押え


★直線三重縫い

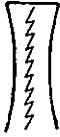


丈夫な縫い目なので、補強縫いとして、袋物やズボンの股上縫いなどに便利です。

* 布が前後するので縫い目がまがらないように注意して縫います。

● 直線状伸縮縫い

セットの目安	模様	押え
		A基本押え



布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のある縫い目です。

* 布が前後するので縫い目がまがらないように注意して縫います。

●オートマチックボタンホール

(縫い目の巾)

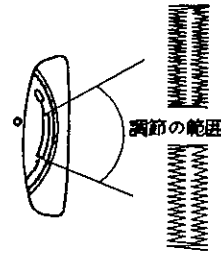
(BH1の場合・・縫い目巾0.5cm BH2の場合・・縫い目巾0.4cm)



セットの目安	模様	押え	送りダイヤル
BH1・BH2		Rオートマチックボタンホール押え	0.3~1 (の範囲)

<縫い目あらかさの調節>

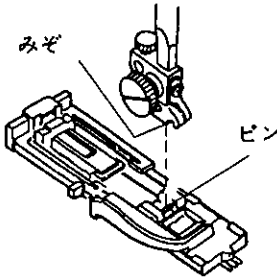
細かい縫い目



あらい縫い目

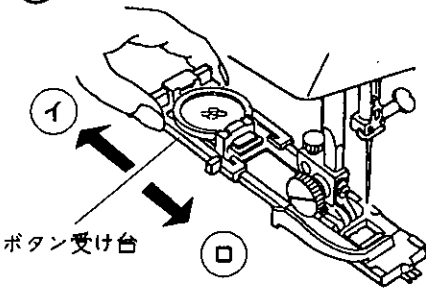
- * ボタンホールの長さは、使用するボタンをセットするだけで自動的に決まります。
- * ボタンの直径が2.5cmまで、ボタン穴かがりができます。
- * 必ず試し縫いをして、正しく縫えることを確認しましょう。
- * 伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼り、押え圧調節レバーを「1」または「2」にして縫います。

①



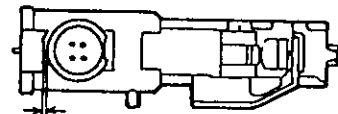
① 針と押え上げをあげてR押えを取りつけます。

②



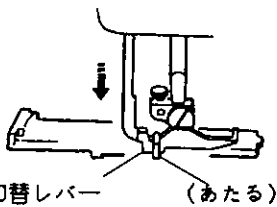
② ボタン受け台を ① 方向に引き、ボタンをのせて ② の方向に戻し、はさみます。

* 使用するボタンが極厚の場合は試し縫いをして確かめてください。すきまをあけて位置決めするとその分大きいボタン穴ができます。



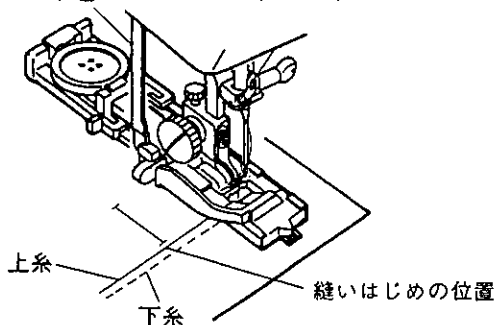
すきま

③



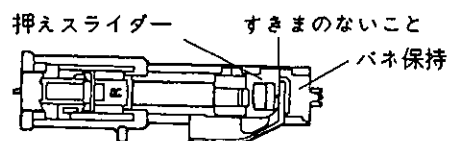
③ BH切替レバーを止まるまでいっぱい引き上げます。

④

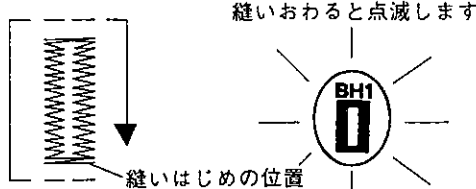


④ 上糸を押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。布を入れ、縫いはじめの位置に針をさして、押え上げをさげます。

* 押えスライダとバネ保持の間にすきまがないことを確認してください。



⑤

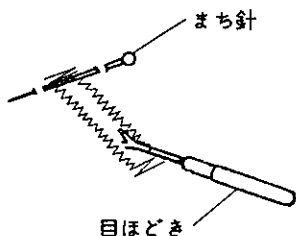


⑤ ミシンをスタートさせ、自動的にとまるまで縫います。

*縫いおわると **BH** 表示が点滅します。

⑥

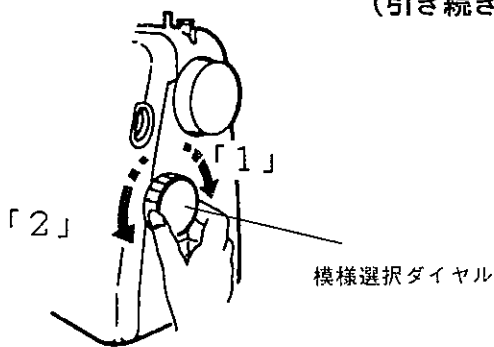
⑦



⑥ 押え上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10cmくらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

⑦ かんぬきの内側にまち針をさし渡して、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。

⑧

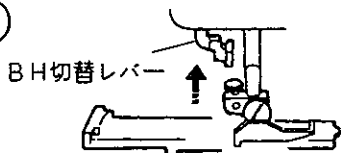


(引き続きオートマチックボタンホール縫いをする場合)

⑧ 一度ダイヤルを「1」または、「2」方向に回して、他の模様を選んだ後、再びBH模様を選びます。

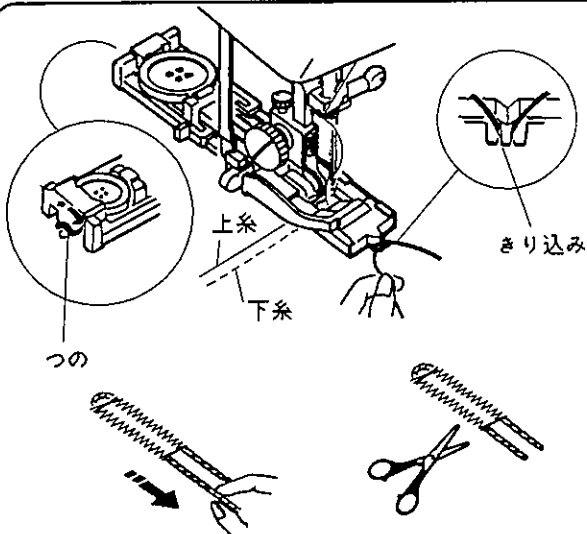
この操作をすると模様表示は点滅から点灯に変わり次のボタンホール縫いのセットができたこととなります。

⑨



⑨ ボタンホール縫いが終わったらBH切替レバーを止るまでいっぱい押しあげて戻してください。

●芯入りオートマチックボタンホール



○芯糸を入れて縫うと丈夫なボタン穴かがりができます。
○芯糸にはレース糸などを使用します。





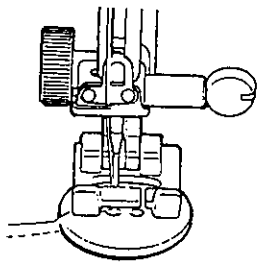
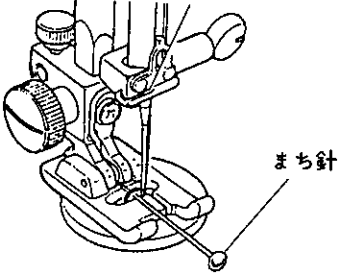
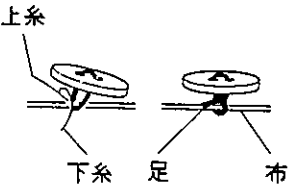
① つのに掛けた芯糸を、押えの下に通して、前側の切り込みに、はさみます。

② 縫いはじめの位置に針をさして押え上げをさげ、縫います。


*縫い方はオートマチックボタンホール縫い手順と同じです。

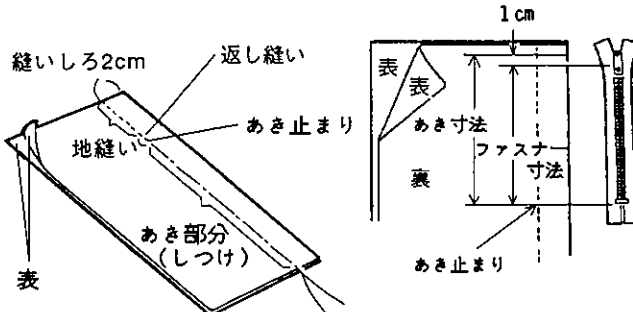
③ 芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

● ボタンつけ

セットの目安	模様	押え	ドロップつまみ	
	1  2  3 	Fサテン押え		* 送りダイヤルの操作は必要ありません。 * 模様1・2・3は、ボタンの穴の巾に合うものを使用してください。
				<p>① はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりにするようにします。</p> <p>② ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押え上げをさげます。</p>
				<p>③ 押えの中央にまち針をのせ、はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。10針くらい縫ったら、上糸・下糸を20cmくらい残して切ります。</p> <p>* 縫いはじめの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。</p>
				<p>④ 上糸をボタンと布の間に引き出してから、上糸を強く引いて下糸をボタンと布の間に引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻きつけて結びます。</p> <p>⑤ 縫い終わったら、ドロップつまみを元に戻します。</p>

●ファスナーつけ

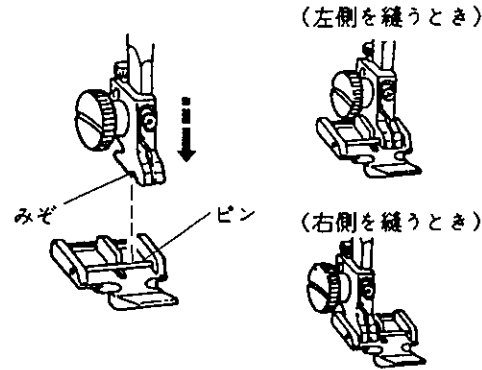
セットの目安	模様	押え	送りダイヤル
		Eファスナー押え	1.5~4



(準備)

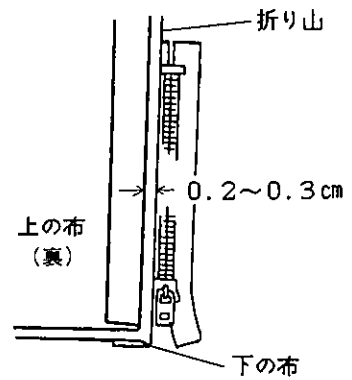
- ① 布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをし数針返し縫いをします。
- ② あき部分は、しつけをしておきます。

* あき寸法はファスナー寸法に1cmプラスした寸法です。



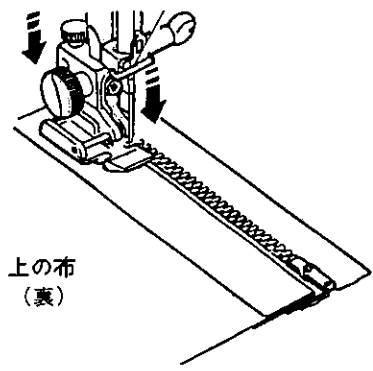
<ファスナー押えのつけ方>

- 左側を縫うときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。
- 右側を縫うときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて左側にセットします。

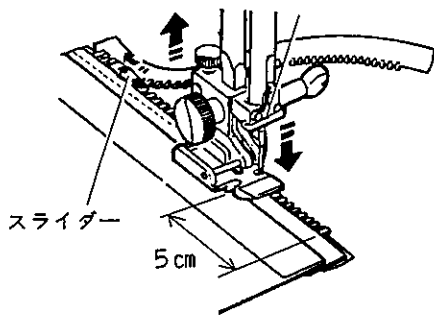


(縫い方)

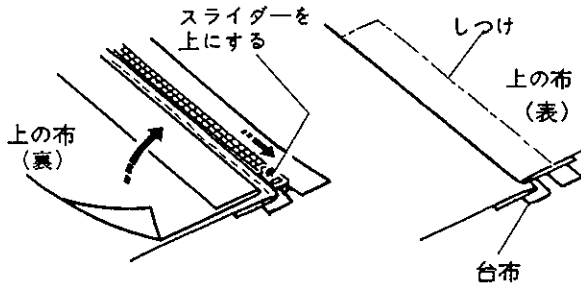
- ① 縫いしろをわり、下の布の縫いしろを0.2~0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。



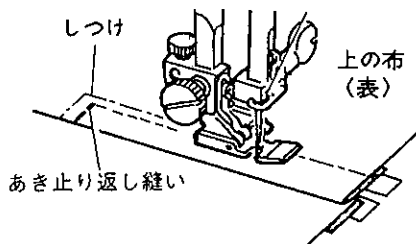
- ② 押えホルダーをファスナー押えの右側にセットします。
- ③ 押えの端にむしのきわを当てて、あき止まりから縫います。



- ④ ファスナーの端から5 cm位手前でミシンを止め、針を布にさします。押え上げをあげてスライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて端まで縫います。

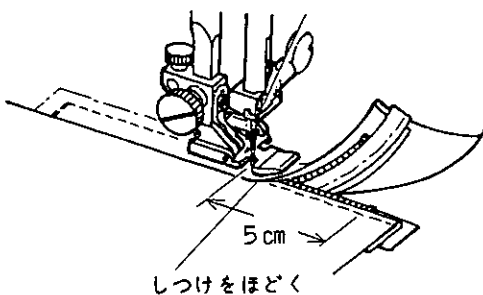


- ⑤ スライダーを上に取りあげて、つまみの金具を上倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。

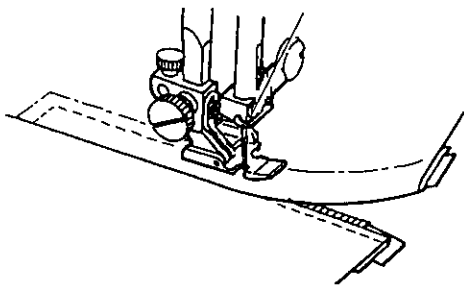


- ⑥ 押えホルダーをファスナー押えの左側にセットします。

- ⑦ 上の布のあき止まりを返し縫いして、押えの端にスライダーのきわを当てて縫います。



- ⑧ ファスナーの上側を5 cmくらい残したところでとめて、はずみ車を手前に回すか、上下停針ボタンを押し針をさげ、針を布にさしたままで押え上げをあげて、しつけ糸をほどきます。



- ⑨ スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りの部分を縫います。

応用縫いろいろ

●キルティング

セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	縫い目を平行に縫っていく方法で、袋物などの装飾に利用します。
		A基本押え +キルター	1.5~4	

キルター止めねじをゆるめて、キルター（棒定規）を、とりつけ穴に入れ、縫い目の間かくに合わせて、止めねじをしめます。

キルターは、前に縫った縫い目をたどるのに使います。

●ピンタック

セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	ブラウスの前身頃などの装飾に利用します。
		Gくけ縫い押え	1.5~3	



- ① はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1~0.2cm内側におりるように布を置いて、押え上げをおろします。
- ② ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、縫います。

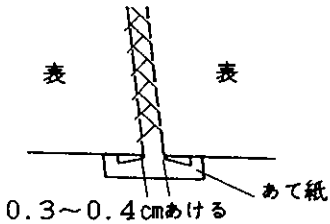
●スモッキング

セットの目安	模様	押え	*送りダイヤルの操作は必要ありません。
		A基本押え	

- ① 糸調子ダイヤルを1~3にして、縫い目のあらかさ0.3~0.4cmの直線縫いを、1cm間かくで数本縫います。*縫い終わったら糸調子ダイヤルを「オート」に戻します。
- ② 上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いて、ひだをよせ、上糸と下糸を結びます。
- ③ 直線縫いの糸と糸の間に模様縫いをしてから、直線縫いの糸を抜きとります。




●ファゴティング

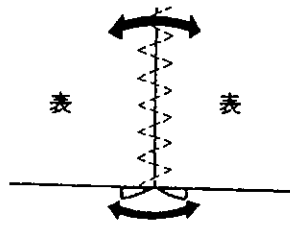
セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	*模様  は送りダイヤルの操作は必要ありません。
		A基本押え	0.5~1.5	



- ① 布端と布端の間かくを0.3~0.4cmあけて、裏にあて紙をします。
- ② 布の表から、間かくの中央を中心にして縫います。
- ③ あて紙をとります。


●パッチワーク


セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	*模様  は送りダイヤルの操作は必要ありません。
	 または 	A基本押え	0.5~1.5	



布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割ります。
布の表から、地縫いの線を中心にして縫います。


●スカラップ

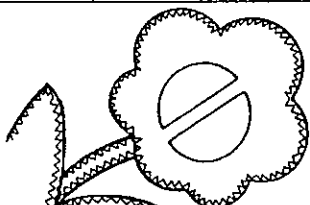
セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	
		Fサテン押え	0.5~1	



- ① 布を表から、布端を1cmくらい残して縫います。
- ② 糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

●アップリケ


セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	押え圧調節レバー	*アップリケ布は糊づけするか、しつけで止めます。 *縫い終わった後、押え圧調節レバーを「3」に戻します。
		Fサテン押え	0.5~1	2	

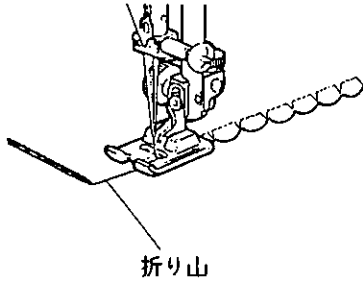


アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちを縫います。

*カーブのところや方向転換をするところでは、はずみ車を手前に回すか、上下停針ボタンを押して針を下位置にしたままかえると、きれいに仕上がります。

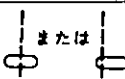


● シェルタック

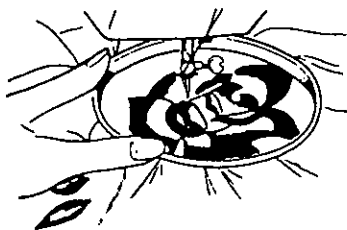
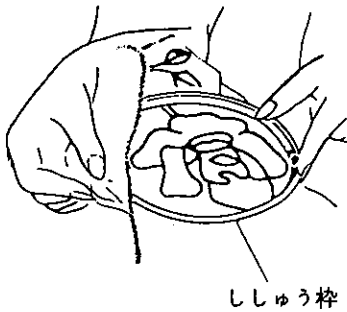
セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	*糸調子は、試し縫いをして、シェルタックの山がきれいに出るように調整します。
		Fサテン押え	2~3	3~9	



- ① うす手の布をバイヤスに2つ折りにし、右側を輪にして押えの下におきます。はずみ車を手前にまわして針が右にきたとき、布端ぎりぎりの外側におりるようにして縫います。
- ② 布を開いて、タックされた山をアイロンで片側にたおします。

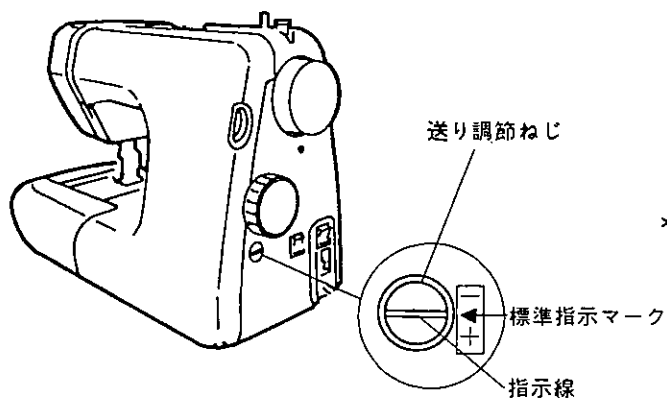
● ししゅう

セットの目安	模様	糸調子ダイヤル	ドロップつまみ	*押えと押えホルダーをはずします。 *送りダイヤルの操作は必要ありません。 *糸調子ダイヤルは、布の裏側に上糸が少し出るくらいにゆるくします。
	 または 	0~4		



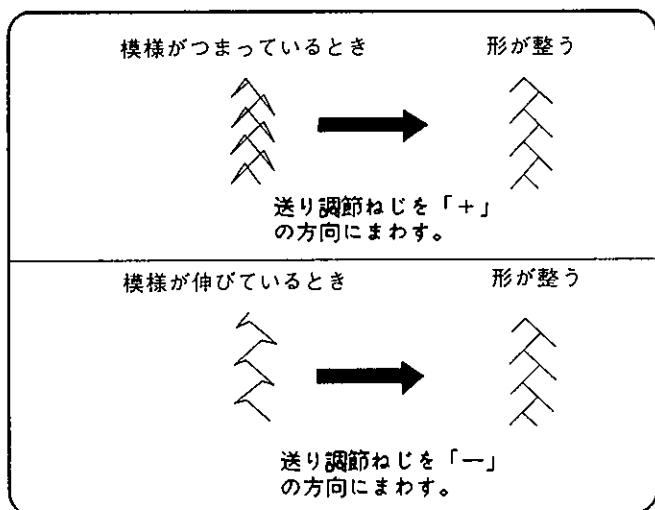
- 模様は、あらかじめ布の上にえんぴつかチョークで印をつけてください。
- ① 布をししゅう枠にピンと張ります。
 - ② 上糸の端を左手でつまみ、針を縫いはじめの位置にさし、押えあげをおろします。
 - ③ はずみ車を手前にまわして針をあげ、上糸を引いて、下糸を布の上に引き出します。
 - ④ 左手の指先で上糸と下糸を押えて止め縫いをし、余分な糸を切ります。
 - ⑤ ししゅう枠を手で下に押しつけるようにし、ゆっくり縫いながら、針が布から抜けている間にししゅう枠を動かし、模様を縫います。
*動いている針に手を近づけ過ぎて、刺さないように気をつけましょう。
 - ⑥ 縫い終わったら、ドロップつまみを元に戻します。

● スーパー模様の形の整え方



布の種類、枚数、縫いの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際に縫うときと同じ条件で試し縫いをしながら送り調節ねじでつぎのようにして調節してください。

* 標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しく縫える目安の位置です。

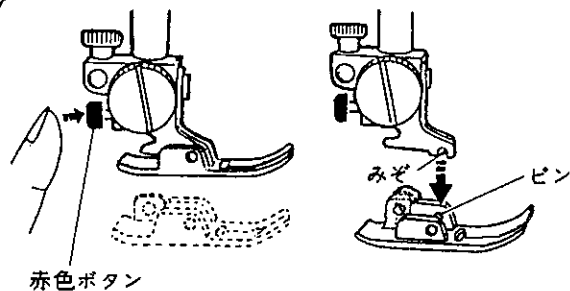


押え・針・ランプのとりかえ方

押え・針・ランプのとりかえのときには、必ず電源スイッチを「切」ってコンセントから電源プラグを抜いてください。

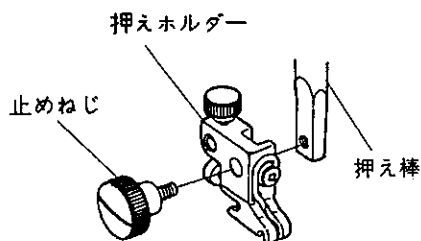


●押えのとりかえ方



- ① 押え上げをあげて、赤色ボタンを押して、押えをはずします。
- ② 押えのピンを押えホルダーのみぞに合わせて押え上げを静かにおろします。

★押えホルダーのはずし方・つけ方



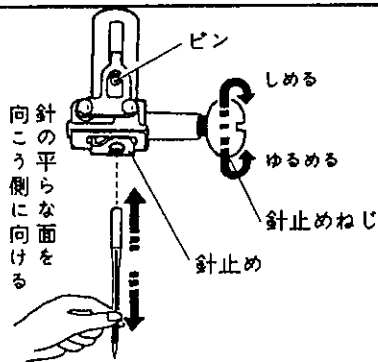
(はずし方)

押え上げをあげ、押えをはずし止めねじを、左にまわしてはずします。

(つけ方)

押えホルダーの穴と、押え棒のねじ穴を合わせ、止めねじをさしこみ、右にまわして、しっかりつけます。

●針のとりかえ方



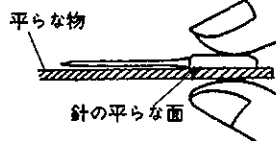
(はずし方)

針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針をはずします。

(つけ方)

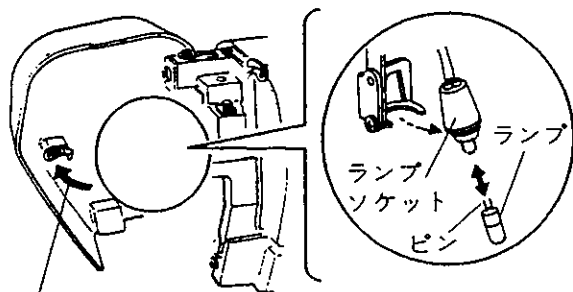
針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで針止めにさしこんで、針止めねじをかたくしめます。

針の調べ方



針の平らな面を平らな物(針板、ガラスなど)に置いたとき、すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲ったり、つぶれているものは使わないようにします。

●ランプのとりかえ方



面板を開けます

(はずし方)

ランプソケットをはずして、ランプをそっと引き抜きます。

(つけ方)

ランプのピンをソケットの穴に合わせながら、差し込みます。

ミシンの手入れと調整

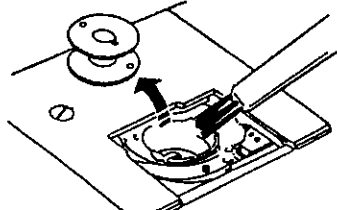
●ミシンの手入れ

使用後は、いきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。

*手入れのときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

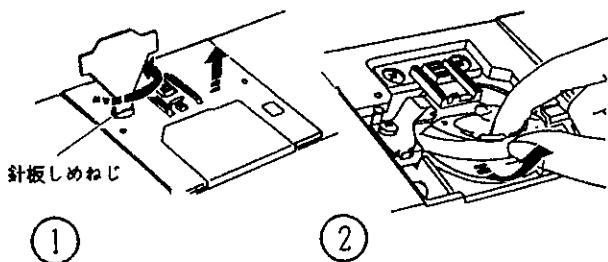
*針と押えは、とりはずして手入れをしてください。

★かまの掃除



- ① 角板をはずし、ボビンを取り出して糸くずやほこりを、ブラシで掃除します。

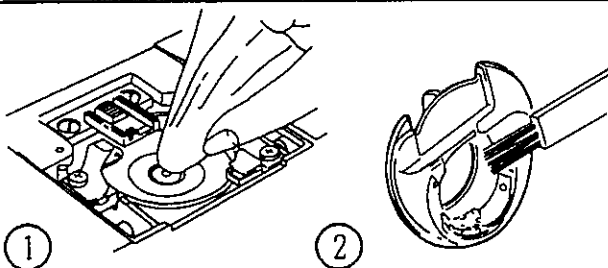
★かまの分解



針板しめねじ

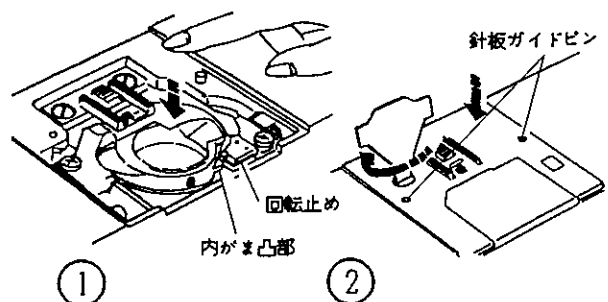
- ① 針板しめねじをはずし、針板をはずします。
- ② ボビンを取り出し内がまの手前を上へ引きながらはずします。

★かまと送り歯の掃除



- ① 送り歯のごみを、ブラシで手前におとし、さらに外がまを掃除し、外がまの中央部を布切れで軽くふきます。
- ② 内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

★かまの組立て



針板ガイドピン

回転止め

内がま凸部

- ① 内がまをさしこみ三角マークを合わせて、内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
- ② ボビンを入れ2か所の針板ガイドピンに針板の穴を合わせて、しめねじをしめます。

●ミシンの調子が悪いときの直し方


調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針がまちがっていたり、針先がつぶれている。 4. 針のつけ方がまちがっている。 5. 縫いはじめに、上糸・下糸を押えの下にそろえて引いていない。 6. 縫い終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。 	<p>11ページ参照</p> <p>6ページ参照</p> <p>26ページ参照</p> <p>26ページ参照</p> <p>13ページ参照</p> <p>14ページ参照</p> <p>13ページ参照</p>
下糸が切れる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下糸の通し方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ポビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 	<p>10ページ参照</p> <p>27ページ参照</p> <p>ポビンを交換する。</p>
針がおれる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針のつけ方がまちがっているか、針がまちがっている。 2. 針止めねじの締めつけが、ゆるんでいる。 3. 縫い終わったとき、布を手前に引いている。 4. 布にくらべて針が細すぎる。 	<p>26ページ参照</p> <p>26ページ参照</p> <p>14ページ参照</p> <p>13ページ参照</p>
縫い目がとぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針のつけかたがまちがっているか、針がまちがっている。 2. 布に対して、針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針を使っていない。 4. 上糸の掛け方がまちがっている。 5. 押え圧が弱い。 6. 品質の悪い針を使用している。 	<p>26ページ参照</p> <p>13ページ参照</p> <p>13ページ参照</p> <p>11ページ参照</p> <p>6ページ参照</p> <p>針を交換する。</p>
縫い目がしわになる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。 3. 布にくらべて針が太すぎる。 4. 布にくらべて縫い目があらずすぎる。 5. 押え圧が、あっていない。 <p>* 特にうすい布を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください。</p>	<p>6ページ参照</p> <p>11ページ参照</p> <p>13ページ参照</p> <p>縫い目を細かくする。</p> <p>6ページ参照</p>
縫いずれがおこる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 押え圧が、あっていない。 	<p>6ページ参照</p>
布送りがうまくいかない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. 押え圧が弱い。 3. 縫い目が細かすぎる。 4. 送り歯があがっていない。 	<p>27ページ参照</p> <p>6ページ参照</p> <p>縫い目をあらくする。</p> <p>5ページ参照</p>
縫い目に溝ができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。 	<p>6ページ参照</p> <p>13ページ参照</p>
ミシンがまわらない	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。(糸巻状態になっている。) 4. コントローラを接続したままでスタート・ストップボタンを押している。 	<p>8ページ参照</p> <p>27ページ参照</p> <p>9・10ページ参照</p> <p>8ページ参照</p>
ボタン穴かがりがうまくいかない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 布に対して、縫い目のあらかさが合っていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。 	<p>17ページ参照</p> <p>17ページ参照</p>
音が高い。	<ol style="list-style-type: none"> 1. かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯に、ごみがたまっている。 	<p>27ページ参照</p> <p>27ページ参照</p>

別売品のご紹介

1.直線押え（組）……………（NO.823801015）


●直線縫い

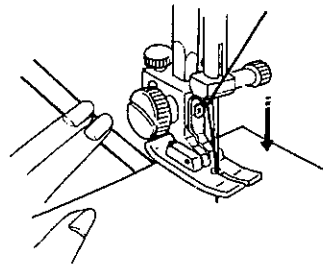
<セットのめやす>

模様選択ダイヤル…………… 

糸調子ダイヤル…………… 2～6

送りダイヤル…………… 1.5～4

押え…………… 
H直線押え




《縫い方》

糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ゆっくり縫いはじめます。

2.三つ巻き押え（組）……………（NO.820809014）

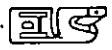
●三つ巻き縫い

<セットのめやす>

模様選択ダイヤル…………… 

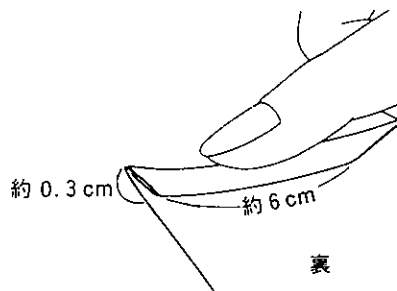
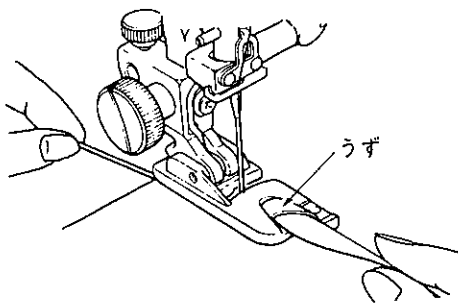
糸調子ダイヤル…………… 3～6

送りダイヤル…………… 1.5～4

押え…………… 
D三つ巻き押え

《縫い方》

- ① 布端の長さ約6 cmを、約0.3 cmの巾で2度折りまげます。
- ② 縫いはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。
- ③ 上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて1～2 cm縫います。
- ④ はずみ車をまわして針をさし、押えをあげて折りまげた布の部分を押えのうずの中に巻きこみます。
- ⑤ 押え上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながら縫います。



3.イーブンフット（組）……………（NO.214870008）

押え（組）の使用法は、説明書が箱の中に同梱されています。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保存して下さい。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より1年間です）およびそれ以後の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申しつけ下さい。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達機能部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないことがあります。
 - ①保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ②浸水、冠水、火災等、天災、地震により不調、故障または損傷したとき。
 - ③お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - ④お買い上げ店、又は当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ⑤職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申し越し下さい。

蛇の目シン工業株式会社
〒104 東京都中央区京橋3-1-1
TEL. 0120-277039(フリーダイヤル)

《仕様》

サイズ：幅417mm×奥行172mm×高さ300mm

重量：8kg

別にキャリングカバー、付属品、コントローラー(又はオプション)0.25kg

縫速度：毎分700回転

使用針：家庭用 HA×1

蛇の目マシン工業株式会社

〒104 東京都中央区京橋3-1-1 ☎03(3277)2361~5